



西中学校通信

第10号

自主的に考え、正しく行動できる生徒

<自立と自律>

ヒバリ(鳥)の引っ越し

春先になって、ヒバリが麦畑に巣をつくった。
初夏になって、多くの村人が麦畑にやってきて、「そろそろ麦を刈らなければならないな。」と話していた。これを聞いたヒバリの子どもが、「お母さん、麦刈りが始まるから、引っ越しをしないといけない。」と言った。しかし、ヒバリのお母さんは「大丈夫。」と言って平然としていた。

数日たってから、数人の村人がやってきて、「ぼちぼち、麦を刈らなければいかな。」と話した。これを聞いたヒバリの子どもは、「お母さん、もうダメだよ。早く引っ越しをしよう。」と言った。しかし、ヒバリのお母さんは、「まだ大丈夫だよ。」と言ってとりあわなかった。

さらに数日後、たったひとりの村人がやって来て、「ぼちぼち、やるか。」と言った。そこで初めて、ヒバリのお母さんが、「さあ、逃げるよ。」と叫んだ。



この話を引き合いに出して、日本のある大きな自動車メーカーの役員が、自分の部下に、次のような話をしたそうです。

「工場内の掃除を、みんなでしっかりとやらなければならない。」といている間は、みんなが、自分のこととして考えないから、しっかりとやるという雰囲気はできていない。そういう段階では、まだ、現場が本気になっていない。

「自分一人でもやる。」と言って、動き出す人間が出てきたとき、他の人間も自分のこととして考え始める。そして、現場は本気になる。

「他の人はともかく、自分でやる。」そういう気持ちが、集団の中の誰かから出てきたとき、その集団は、本気で考え始め、集団が動き始める。

人間は、自分以外の人がいるときには、誰かが始める、やってくれると思いがちだが、ひとりで、本気で考えたとき、人間は自主的に行動を起こそうと思う。

ヒバリのお母さんは、このことをよく理解していたというお話です。

西中生の活躍

●狭山市図工・美術作品展 入選

<2年生>

22名

<1年生>

16名

あいさつ運動

令和5年11月8日に、生徒会本部主催の「あいさつ運動」が実施されました。今年度からは、地域のあいさつ運動と連携した形となり、また、広瀬小学校近くで小学生にむけてのあいさつを行ったとのこと。今回は、2・3年生を対象に参加を呼びかけたところ、以下の人たちが参加をしてくれました。ありがとうございました。

<2年生>

23名

<3年生>

2名

狭山市総合防災訓練

令和5年11月19日（日）に、本校体育館を会場として、狭山市総合防災訓練の避難所開設訓練が実施されました。当日は、生徒14名が自主的に参加してくれました。中学生であれば、災害時は、守られる立場から守る立場になることができるかもしれません。実際に、本校が避難所となり、多くの地域住民が避難してくれば、中学生なら避難所の手伝いができるはずです。

この訓練に意義を感じて参加してくれた人たちは、以下のとおりです。ありがとうございました。

<1年生> 9名

<2年生> 2名

<3年生> 3名

